

科 目		必・選	担 当 教 員		学年・学科			単位数	授 業 形 態				
物理 (Physics)		必	溝川辰巳 妹背修治		2 年生 知能機械工学科			3	通年 前期 週 4 時間 後期 週 2 時間				
授業概要		前期は力と運動（物理A、溝川担当）及び波・音・光（物理B、妹背担当）を週一回ずつ並行して学習する。後期は電気と磁気について学習する（溝川担当）。											
到達目標		基本的な物理現象について説明できることを目標とする。 (1) 物理現象について正しい知識を持ち、理解できる。 (2) 基本的な物理量の扱いができる。 (3) 物理現象を図式化またはグラフ化し、対応する式で表現できる。											
評価方法		定期試験で 6 0 %、平常時の小テストや提出課題で 4 0 % に配分し、合計 1 0 0 点で評価する。前期物理A、前期物理B、及び後期の比重は 1 : 1 : 1 とする。											
教科書等		物理Ⅰ（数研出版）、物理Ⅱ（数研出版） トライアルノート物理Ⅰ（数研出版）、トライアルノート物理Ⅱ（数研出版） フォローアップドリル物理 「波の性質と音・光（数研出版）」、「電気」											
内 容									学習・教育目標				
		「力と運動」分野（物理A）				「波・音・光」分野（物理B）							
第 1 週	位置ベクトル、変位					波とは、波の発生			C-1				
第 2 週	平面運動：速度の合成・分解、相対速度					波の要素			C-1				
第 3 週	平面運動：相対速度、加速度					横波と縦波			C-1				
第 4 週	平面運動：落体の運動（水平投射）					重ね合わせの原理、定常波			C-1				
第 5 週	平面運動：落体の運動（斜方投射）					波の干渉			C-1				
第 6 週	運動量と力積					ホイヘンスの原理、波の反射・屈折・回折			C-1				
第 7 週	運動量保存則					音の反射・屈折・回折・干渉			C-1				
第 8 週	反発係数					うなり			C-1				
第 9 週	等速円運動：速度、加速度					弦の振動			C-1				
第 1 0 週	等速円運動：向心力					気柱の振動、共鳴			C-1				
第 1 1 週	慣性力					ドップラー効果			C-1				
第 1 2 週	単振動：単振動とは					光の性質			C-1				
第 1 3 週	単振動：速度、加速度、力					光の反射・屈折			C-1				
第 1 4 週	単振動：ばね振り子と単振り子					レンズ			C-1				
第 1 5 週	万有引力による運動					光の干渉			C-1				
第 1 6 週	静電気力、クーロンの法則、電気量保存の法則								C-1				
第 1 7 週	電場、電場の重ね合わせ								C-1				
第 1 8 週	電気力線								C-1				
第 1 9 週	電位と電位差、一様な電場とその電位								C-1				
第 2 0 週	点電荷の周りの電位								C-1				
第 2 1 週	静電誘導と誘電分極								C-1				
第 2 2 週	コンデンサー、電気容量、誘電率								C-1				
第 2 3 週	コンデンサーの接続、コンデンサに貯えられるエネルギー								C-1				
第 2 4 週	オームの法則、抵抗率、ジュール熱								C-1				
第 2 5 週	抵抗の接続、電流計・電圧計								C-1				
第 2 6 週	磁極と磁場・磁力線、磁化								C-1				
第 2 7 週	電流のつくる磁場								C-1				
第 2 8 週	電流が磁場から受ける力、平行電流が及ぼしあう力、ローレンツ力								C-1				
第 2 9 週	レンツの法則、ファラデーの電磁誘導の法則、渦電流								C-1				
第 3 0 週	磁場を横切る導線に生じる誘導起電力、交流の発生、電磁波								C-1				
(特記事項)			JABEEとの関連										
			JABEE	a	b	c	d1	d2a) d)	d2b) c)	e	f	g	h
			本校の学習	A	A	C-1	C-1	C-2	B	B	D	C-3	B
			・教育目標			◎							

1. 合格ラインについて、特に記載の無いものは、60点以上を合格とします。

2. 定期試験について、特に記載の無いものは、評価配分を均等とします。（【例】年4回定期試験を実施した場合の各定期試験の評価配分は、特に記載の無いものは、25%ずつとなります。）

<前期「力と運動」分野（物理A）>

第1週～第5週 平面内の運動

一年生の物理では、基本的に一直線上の運動を扱ってきたが、ここでは、ベクトル等を用い、2次元の平面内の運動を学習する。

第6週～第8週 運動量の保存

運動の勢いを表す量として、新たに、運動量 $P = mv$ を学習する。さらに、力積と運動量の関係、運動量の保存則について学ぶ。

第9週～第15週 円運動、単振動、万有引力

平面運動の例として、等速円運動について学習する。遠心力などの慣性力、単振動、万有引力についても学習する。

<前期「波・音・光」分野（物理B）>

第1週～第6週 波とは、波の性質

波とは、媒質のある一部分の振動が、周辺の振動を引き起こし、その影響が遠方へ伝わっていく現象である。波は重ねあわせの原理やホイヘンスの原理に従い、干渉や定常波、反射・屈折・回折などを起こす。このような波の一般的な性質について学ぶ。

第7週～第11週 音波

音は空気を媒質とする波である。これを例に、うなりや共鳴、ドップラー効果など波のより進んだ事項を学ぶ。

第12週～第15週 光

光は電場と磁場の変化が空間を伝わっていく電磁波の一種である。これを例に、屈折や干渉について理解を深める。

<後期「電気と磁気」分野>

第16週～第23週 電場

電気現象の基礎となる、**電場**の考え方を学習する。電場とは、簡単に言うと、電気の性質を帯びるようになった空間のことである。さらに、進んで、電場中の電荷に対する静電気力のする仕事の量を表す**電位**を学ぶ。最後に、実用的な電気回路の素子であるコンデンサーの基礎を学ぶ。

第24週～第28週 電流、電流と磁場

磁場とは磁気的な性質を帯びるようになった空間のことである。磁気現象は電流と非常に密接な関係がある。ここでは、まず、電流および直流回路の基本を学ぶ。つづいて、電流が作る磁場をいくつかの簡単な場合について学習する。つづいて、電流が磁場から受ける力について学習する。

第29週～第30週 電磁誘導

コイルの中の磁場が時間的に変動することで、コイルに起電力が発生する（電磁誘導）。ここでは、電磁誘導の基礎を学習し、交流や発電に関する理解を深める。